

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2017年夏)の結果

千葉経済センター
(公益財団法人 ひまわりベンチャー育成基金)

当センターでは、「2017年夏のボーナス予想」や「暮らし向き」について、千葉銀行40ヶ店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

1.ボーナス予想額：56万6千円(前年夏比、1千円増加(0.2%増加))

今夏のボーナス予想額は56万6千円で、前年夏の受取額(回答者の実績)を1千円上回るアンケート結果となった。予想伸び率は「+0.2%」で今回微増であるが、夏季調査のみの時系列比較では13年夏より5期連続の「増加」予想となった。

2.暮らし向きアンケート調査について

暮らし向きの質問で、半年前より「悪くなった」(12.0%)が「良くなった」(8.9%)を3.1ポイント上回った。今後半年間の見通しについては「変わらない」(73.4%)を除くと「悪くなりそう」(17.4%)が「良くなりそう」(9.1%)を8.3ポイント上回る結果となり、過去のアンケート結果と同様に今回も慎重な姿勢がうかがえた。

▽ボーナスの増減予想の年齢階層別では30歳未満で「増えそう」が「減りそう」を大幅に上回り、30歳代、40歳代も昨夏と同様に「増えそう」が「減りそう」を上回っている。一方、50歳以上では「増えそう」が「減りそう」を大幅に下回っている。また、50歳以上では「増えそう」と回答する割合が年々減少している。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位「生活費の補填」で、以下「ローン等の返済」、「買い物」、「旅行・レジャー」、「交際費」の順となった。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.4%、「ゆうちょ貯金」8.4%、「社内預金」7.6%、「投信・株式」3.5%の順になっている。

▽貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」、以下「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている。

▽購入希望主要品目(複数回答)では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

増減予想を年齢階層別にみると、30歳未満は「増えそう」が30.3%で「減りそう」9.0%を大幅に上回っている。30歳代、40歳代も「増えそう」が「減りそう」を昨夏と同様に上回っている。50歳以上は、「増えそう」5.8%で「減りそう」17.9%を大幅に下回っている。なお、50歳以上の「増えそう」は15年夏10.3%から年々減少し、この世代の厳しさの一端がうかがわれる(図表-1)。

夏・冬のボーナス増減予想割合の推移は、(図表-2)の通りである。

「変わらない」は、ここ数年全体としては70%以上で推移し全階層で多数を占めている。「減りそう」は、全体として09年冬の40.9%から減少し、13年夏より直近と同水準の比率で推移。本アンケートでは、11.3%となった。

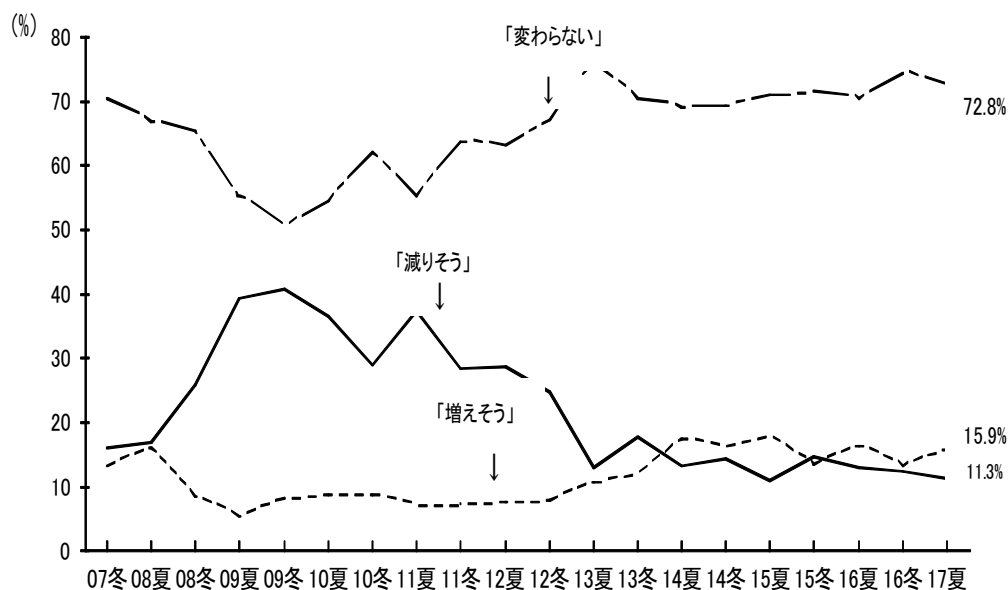
図表-1 ボーナスの増減予想(対前年比)

(構成比、単位:%)

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	15夏	17.7	11.2	71.1
	16夏	16.5	13.1	70.4
	17夏	15.9	11.3	72.8
30歳未満	15夏	29.1	9.0	61.9
	16夏	31.9	6.2	61.9
	17夏	30.3	9.0	60.7
30歳代	15夏	24.3	8.1	67.6
	16夏	16.7	12.1	71.2
	17夏	18.4	9.2	72.4
40歳代	15夏	13.4	10.4	76.1
	16夏	14.2	11.6	74.2
	17夏	13.3	8.9	77.8
50歳以上	15夏	10.3	15.4	74.3
	16夏	9.4	20.5	70.2
	17夏	5.8	17.9	76.3

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

今夏ボーナス予想額は56万6千円となり、昨夏の受取額(回答者の実績)比で1千円上回る結果となった。予想伸び率は、+0.2%であり、微増であるが夏季調査のみの時系列比較では13年夏より5期連続の「増加」予想となった。

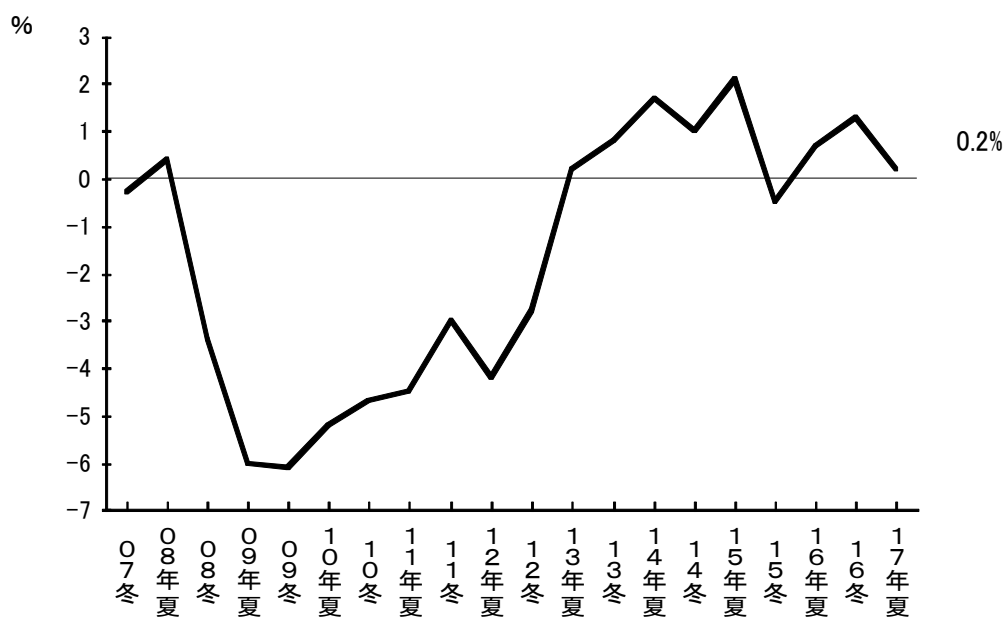
年齢階層別では、40歳代、50歳以上で減少となったが、特に「30歳未満」は、予想伸び率が8.8%と高かった。また、勤務地別でみると、都内勤務者は県内勤務者よりも予想額が34万4千円高いが、予想伸び率は、県内勤務者が0.4%の増加であるのに対し、都内勤務者は▲0.8%の減少であった(図表-3)。

夏・冬のボーナス予想伸び率の推移は、(図表-4)の通りである。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
全 体		56.6	0.2
30歳未満		38.2	8.8
30歳代		49.9	2.7
40歳代		64.9	△ 0.9
50歳以上		67.1	△ 3.9
勤務 地別	県 内	49.9	0.4
	東 京	84.3	△ 0.8

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移(全体)



3 ボーナスの配分予定

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位「生活費の補填」で、以下「ローン等の返済」、「買い物」、「旅行・レジャー」、「交際費」の順である。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(42.2%)、2位「教育・教養」(11.3%)、3位「生活費の補填」(10.6%)で、以下「ローン等の返済」(9.2%)、「買い物」(7.6%)、「旅行・レジャー」(7.1%)、「交際費」(0.7%)の順となっている。

「貯蓄」は、経済情勢にかかわらず常にトップにあり、堅実性の重視が感じられる。また、「教育・教養」への配分予定も従来のアンケート調査と同様上位となった。

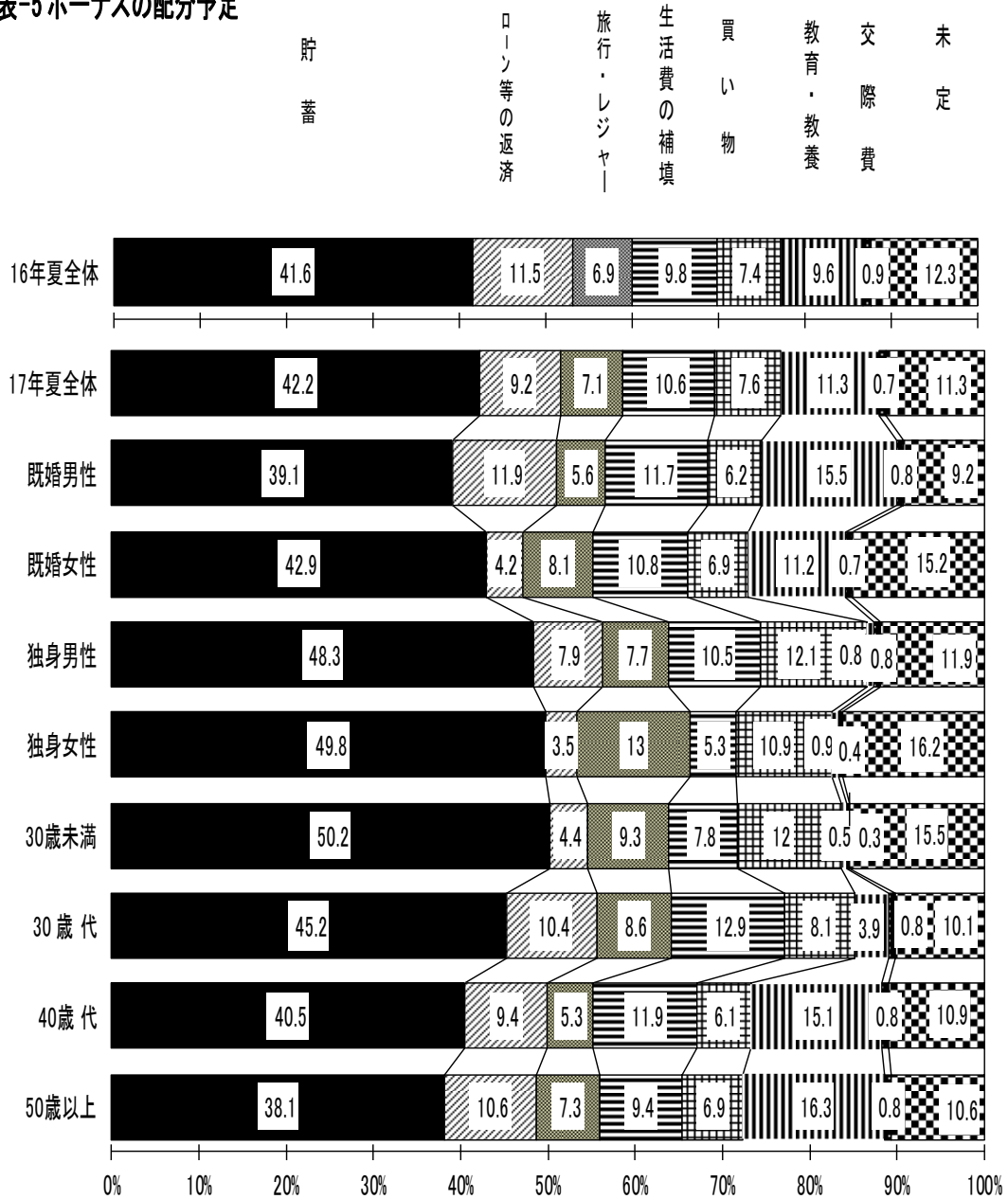
既婚・独身、男・女を問わず、「貯蓄」に回す割合が高い。特に独身者は、女性、男性とも貯蓄指向が高く、女性は49.8%、男性は48.3%を貯蓄に回すと回答している。「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて「買い物」のウェイトが高く、既婚者は「教育・教養」のウェイトが高い。

また、男性は、既婚・独身とも「ローン等の返済」のウェイトが女性に比べ高く、「生活費の補填」も高い。既婚女性も「生活費の補填」も高いが、独身女性は低く「旅行・レジャー」が高い。

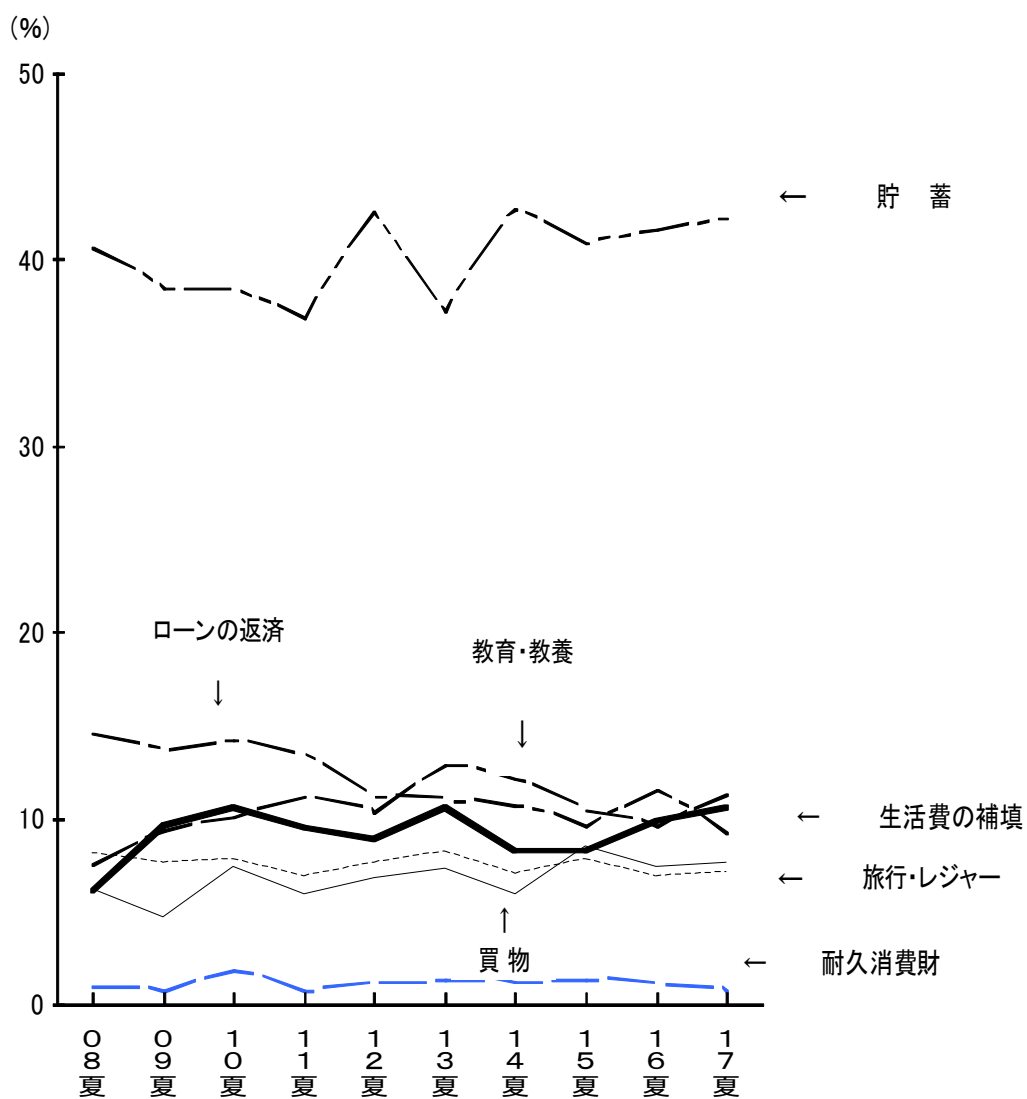
年齢階層別でも全ての年齢層において「貯蓄」が一番の配分予定となっており、特に30歳未満(50.2%)と30歳代(45.2%)は高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満は「買い物」30歳代は「生活費の補填」や「ローン等の返済」、40歳代、50歳以上は「教育・教養」、「生活費の補填」や「ローン等の返済」への配分割合が高くなっている(図表-5)。

ボーナスの配分予定の推移(夏季のみの時系列推移)は、ここ数年あまり大きな変化はみられない(図表-6)。

図表-5 ボーナスの配分予定



図表-6 ボーナスの配分予定の推移



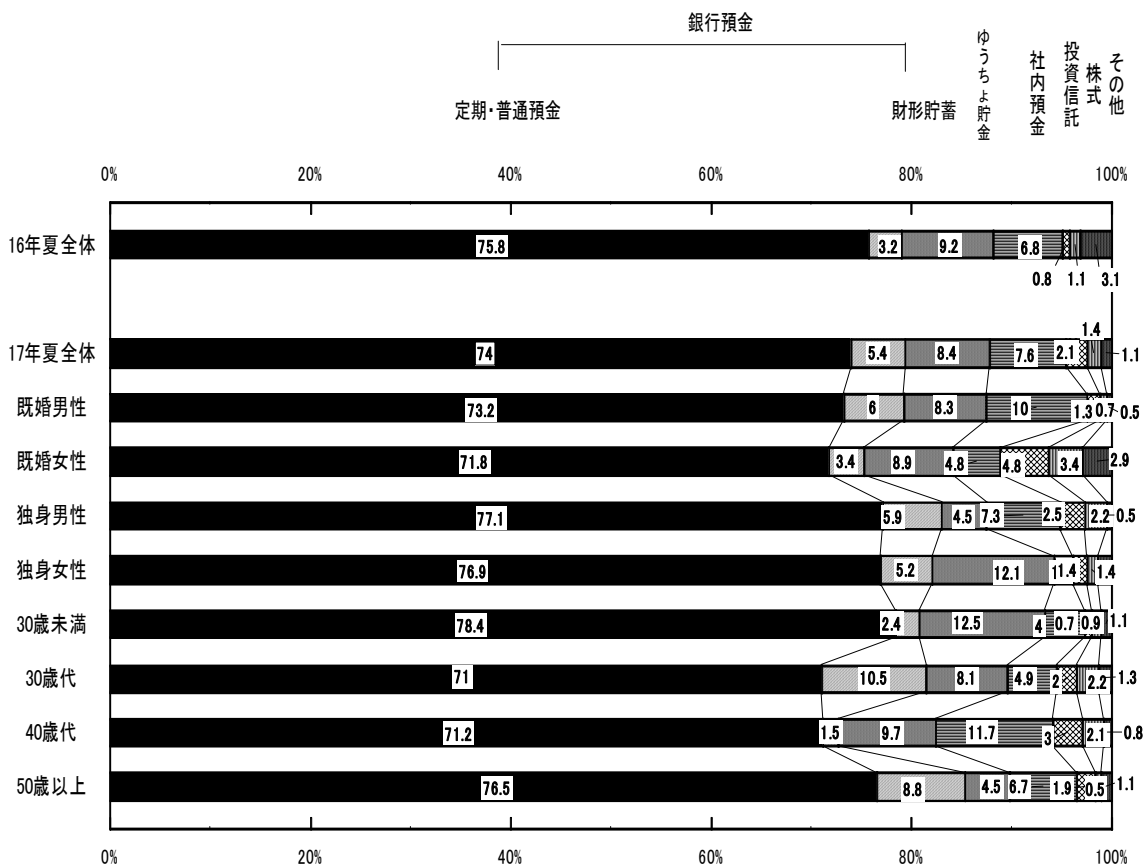
4 貯蓄の内訳

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.4%、「ゆうちょ貯金」8.4%、「社内預金」7.6%の順となっており、低金利の中でも安全性の重視が感じられる。この3項目で全体の95.4%(昨夏 95.0%)を占めている(図表-7)。

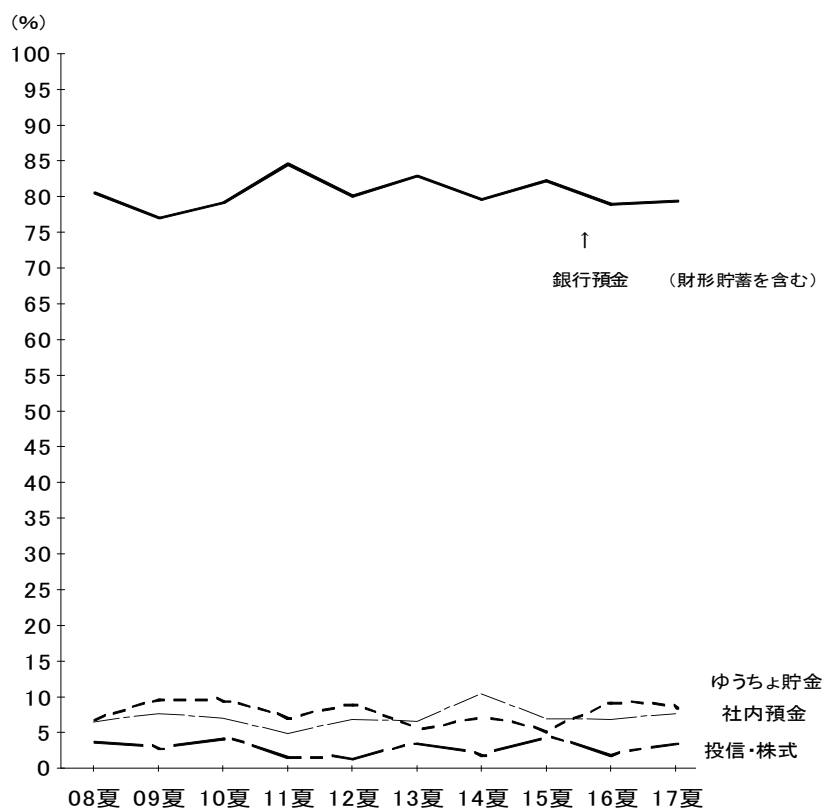
貯蓄の内訳推移(夏季のみの時系列推移)は、(図表-8)通りである。

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別でも、いずれも「銀行預金(財形貯蓄を含む)」の割合が大部分を占めている。年齢階層別で見ると、30歳代(81.5%)と50歳以上(85.3%)が高い。銀行預金以外では、「ゆうちょ貯金」は30歳未満(12.5%)が高い割合を示す結果となっている。

図表-7 貯蓄の内訳



図表－8 貯蓄の内訳推移

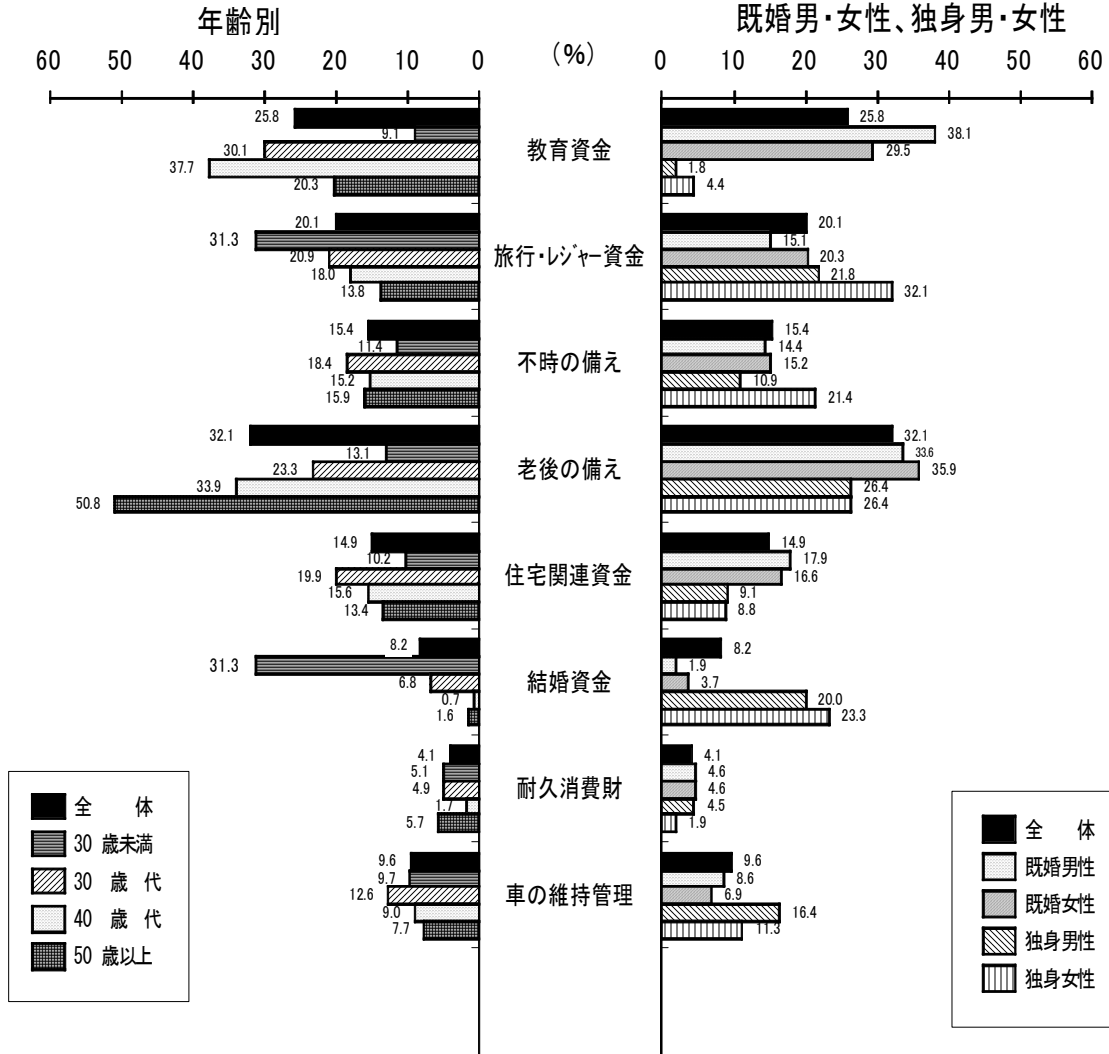


5 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」が上位であった。以下「不時の備え」、「住宅関連資金」、「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている。

貯蓄の目的(複数回答)の全体集計では、1位「老後の備え」32.1%、2位「教育資金」25.8%、3位「旅行・レジャー資金」20.1%、4位「不時の備え」15.4%、5位「住宅関連資金」14.9%、6位「車の維持管理」9.6%、7位「結婚資金」8.2%、8位「耐久消費財」4.1%となっている(図表－9)。

図表-9 貯蓄の目的(複数回答)

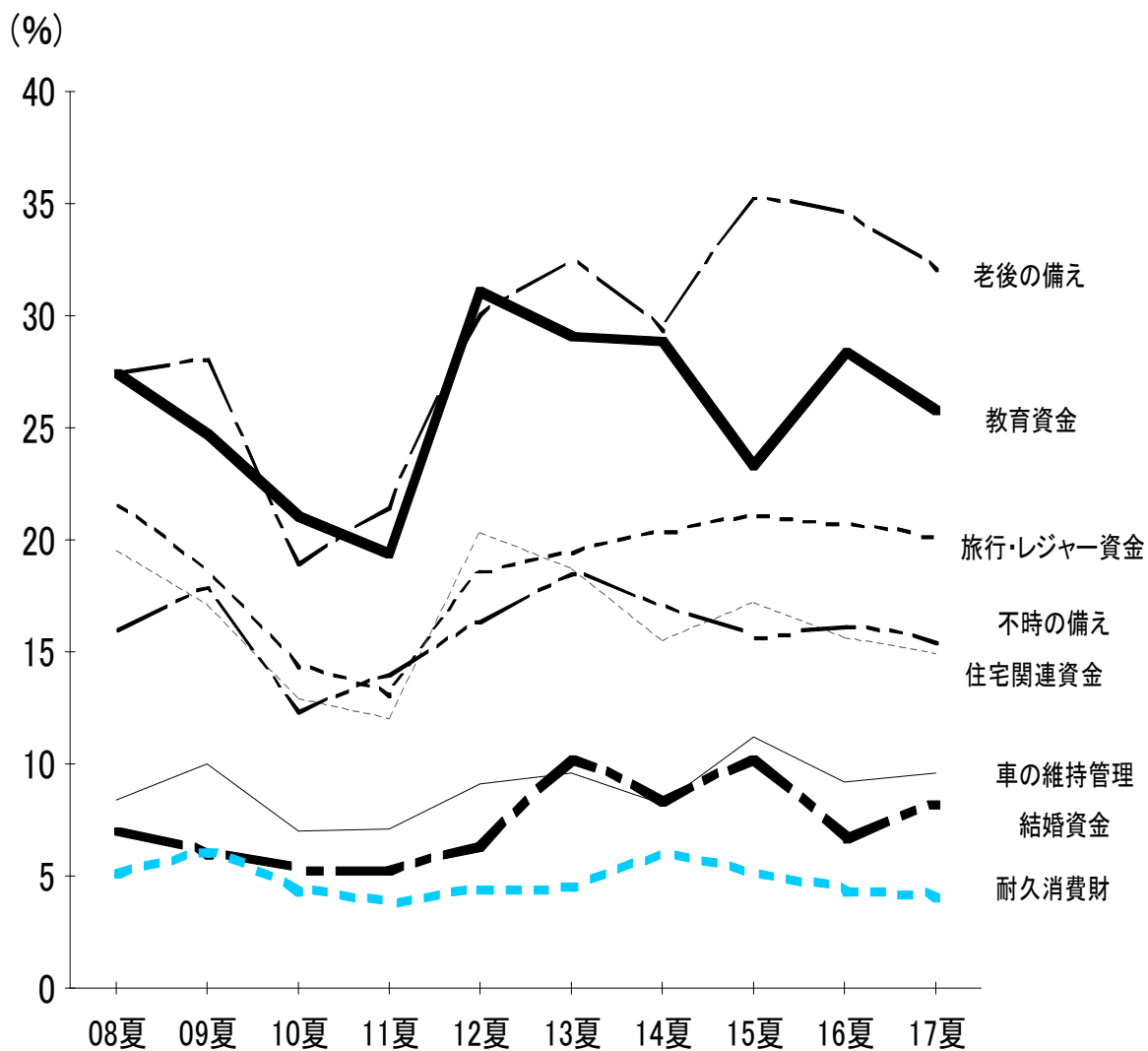


年齢階層別にみると、30歳未満は「結婚資金」(31.3%)と「旅行・レジャー資金」(31.3%)、30歳代は「教育資金」(30.1%)、40歳代も「教育資金」(37.7%)、50歳以上は「老後の備え」(50.8%)が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「教育資金」(38.1%)、既婚女性は「老後の備え」(35.9%)、独身男性も「老後の備え」(26.4%)、独身女性は「旅行・レジャー資金」(32.1%)をそれぞれトップに挙げている。

貯蓄の目的の推移(夏季のみの時系列推移)は、(図表-10)の通りである。

図表-10 貯蓄の目的の推移



6 ボーナスで購入したい主要品目

購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位であった。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。

ボーナスで買いたいもの(複数回答)上位は、「婦人服」(22.8%)、「紳士服」(15.0%)、「家具・インテリア」(14.8%)、以下「鞆・ハンドバッグ」、「くつ」となった(図表-11)。

図表-11 購入希望主要品目

	全 体			%	(複数回答、単位:%)			
	15夏	16夏	今夏		既 婚 男 性		既 婚 女 性	
第1位	婦人服	婦人服	婦人服	22.8	紳士服	21.7	婦人服	37.5
第2位	家具・インテリア	紳士服	紳士服	15.0	家具・インテリア	14.9	鞆・ハンドバッグ	18.1
第3位	紳士服	家具・インテリア	家具・インテリア	14.8	子供服	12.8	家具・インテリア	16.7
第4位	鞆・ハンドバッグ	鞆・ハンドバッグ	鞆・ハンドバッグ	13.2	冷房器具	10.0	子供服	13.9
第5位	くつ	子供服	くつ	10.7	乗用車	10.0	紳士服	9.0
第6位	子供服	くつ	子供服	9.0				
第7位	パソコン	パソコン	パソコン	8.5	独 身 男 性		独 身 女 性	
第8位	化粧品	冷蔵庫	乗用車	7.7	紳士服	25.0	婦人服	50.8
第9位	冷房器具	化粧品	化粧品	7.4	乗用車	17.9	鞆・ハンドバッグ	30.2
第10位	冷蔵庫	冷房器具	冷房器具	6.8	家具・インテリア	14.3	化粧品	27.0
					パソコン	13.1	くつ	24.6
					鞆・ハンドバッグ	11.9	家具・インテリア	12.7

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前との比較で収入が「増えた」との回答割合は 14.8%で、今後半年間の見通しについて「増えそう」との回答は 14.3%で、0.5 ポイント減少。一方「減った」は 12.0%で、今後「減りそう」は 14.2%で 2.2 ポイント増加。収入についてはまだ明るい見通しを持つ状況ではないことがうかがえる。

(2) 消費支出

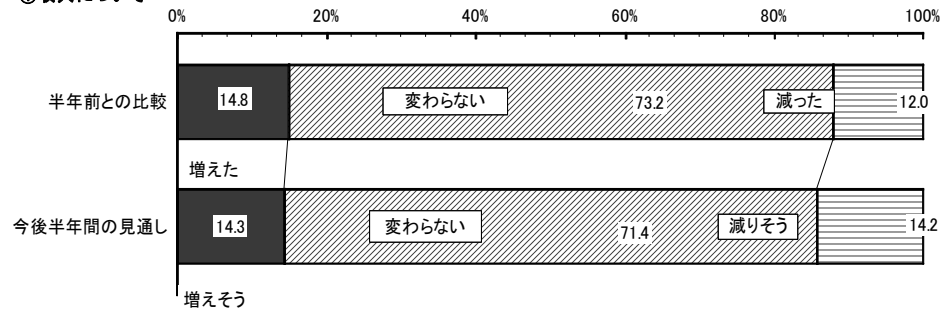
半年前との比較で支出を「増やした」との回答割合は 26.7%で、今後半年間の見通しについて「増やす」との回答は 13.7%で、13.0 ポイント減少。一方「減らした」は 13.8%で、今後「減らす」は 24.6%で 10.8 ポイント増加し、消費支出で先行きに関しては、慎重な姿勢がうかがえる。

(3) 生活全般

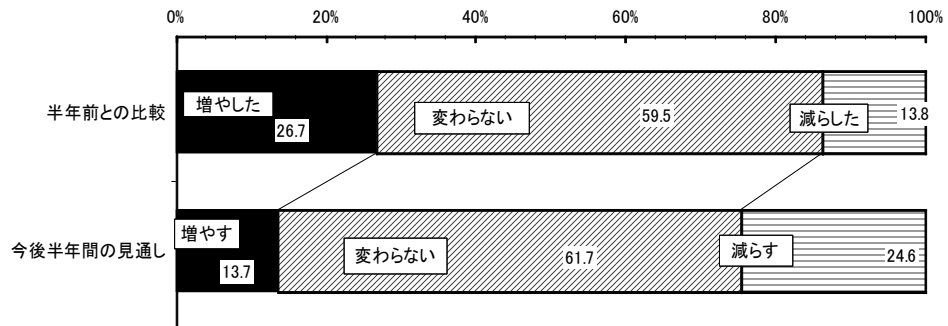
暮らし向きの質問で、半年前より「悪くなった」(12.0%)が「良くなった」(8.9%)を 3.1 ポイント上回った。今後半年間の見通しについては「変わらない」(73.4%)を除くと「悪くなりそう」(17.4%)が「良くなりそう」(9.1%)を 8.3 ポイント上回る結果となり、過去のアンケート結果と同様に今回も慎重な姿勢がうかがえた(図表-12)。

図表-12 暮らし向きの実感と今後の見通し

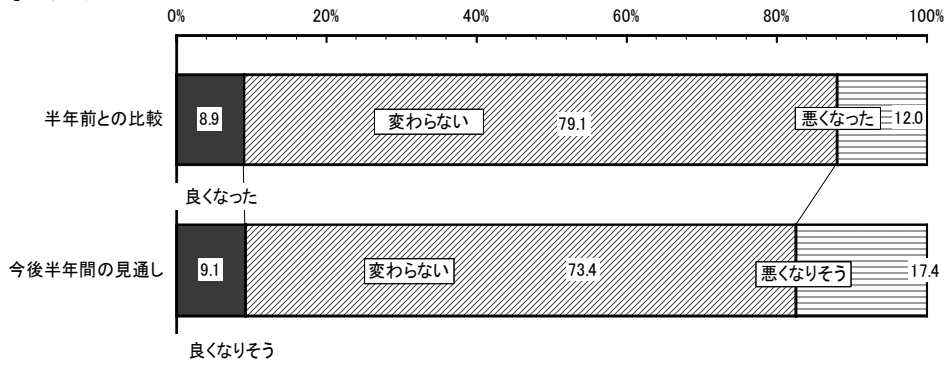
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



回答者の構成

(人)

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	31	91	159	150	431
既婚女性	15	49	80	73	217
独身男性	52	27	21	10	110
独身女性	78	39	29	13	159
計	176	206	289	246	917

アンケート調査実施要領

①方 法	千葉銀行への来店客を対象 として、ロビーにて実施
②実 施 日	2017年4月3日～7日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	917人
有効回答率	91.7%